

(別紙2 - 1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年11月15日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201702		
法人名	特定非営利活動法人 おりおせ福祉の森		
事業所名	グループホーム あっとホーム黒髪		
所在地	長崎県佐世保市黒髪町 6515 番地 27		
自己評価作成日	平成23年11月15日	評価結果市町受理日	平成24年1月6日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所 1階
訪問調査日	平成23年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は民家改造で家庭的な事業所名にもあるとおりアットホームな所です。反面、利用者が足腰の状態が思わしくないときは階段がネックでした。そこでエレベーターを設置することになりました。家庭的な雰囲気は失わずに、安心して過ごせるホームに近づいたと確信しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は民家を改修し造られ、利用者の高齢に伴い身体的配慮でエレベーター設置がなされた。管理者は大工仕事が得意で、利用者の要望によりリハビリの為、手すりや踏み台など製作、常に利用者の立場で笑顔で安心して生活ができるような環境作りに心かけている。また、玄関を入ると東北の震災募金箱が設けられ社会貢献の一部が垣間見えた。

現在は、夜勤が2名体制となり職員(パートを含む)20名と増員されたが、利用者に対しての笑顔で暮らしていただける家庭的な雰囲気を保たれており、職員は食事メニューに合わせ手作りの品を持参される等、取り組まれている。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念をミーティングで唱和し、実践につなげるよう心がけている	理念は毎日の唱和で職員に浸透されており、利用者が家庭的な雰囲気でも過ごしていただけるよう、日々の支援の中でその実現を目指されている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は町内会の役員の役目を終え、町内に参加する事が少なくなってきた。	利用者の身体的な事もあり、町内会活動に参加する機会が少なくなったが、小学校児童からの利用者へ手紙を頂いている。現在、地域や小学校の行事案内ポスターの場所の提供をされている。	町内の役員終了後、地域との関わりが少なくなったとの事であるので、事業所の行事案内や地域行事の参加など積極的に地域の方との関係作りに取り組まれることに期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は認知症キャラバンメイト養成講座を受講し、地域の方々に認知症の理解をして頂けるよう準備している	/	/
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議に於いて地域代表、利用者代表、家族代表の意見をサービス向上に活かしている	今年度は長寿社会課からも参加されており、認知症サポート講演依頼の話も出た。利用者日々の生活で有意義な意見交換がなされており、サービスの向上に努めている。	
5	4	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	民生員、市や地域包括支援センターと連携をとり交流を図っている	エレベーター設置とスプリンクラー設置が重なり、事業所の実情報告をするなど、積極的に関わることで市との連携を行いながら、協力を得ている。	

6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>法人全体の研修等でグループワークを用い職員全員が身体拘束について理解出来るように取り組んでいる</p>	<p>法人研修には全職員が参加できるよう2回に分けて行っている。ベット柵においてもペットを低くする事で身体拘束について理解し支援に活かしている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止マニュアルを準備し、また研修でも取り上げて防止に努めている</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している</p>	<p>今回も研修として取り上げたかったが、未だに出来ていない。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者・家族に対して充分説明を行っている</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設けてはいるが、意見が出ていない。</p>	<p>利用者の意見、要望はその都度対応し、家族の面会時や電話での近況報告時に意見交換がしやすい工夫をされている。最近インフルエンザ関係で温度、湿度管理の要望があった。</p>	
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月の会議に加え、毎週職員の代表数名と、管理者、法人の統括責任者で会議を行うようになった。</p>	<p>法人で行なわれる会議録は回覧し、全職員が把握されている。職員の意見等において夜勤体制を2名にした事から利用者、家族の安心に繋がった。</p>	

12	<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>法人全体の研修会の場で、本部や理事長から、話がなされている。</p>		
13	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>昨年に引き続き、介護に於けるあらゆる分野に関する自己評価をして改善向上を目指すように指導がされている</p>		
14	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会等を通じ同業者との連携交流を図っている</p>		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
15	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人に不安感を与えないよう笑顔で接する事を心がけ、希望に添った援助をする</p>		
16	<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所の段階で本人の情報を出るだけ多く聞き取り折々の訪問時に近況報告をしながら更に、希望をよく聞き、馴染みの関係を構築していく</p>		
17	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>透析希望の利用者はもとより、リハビリ希望者があった場合、介護保険の許す範囲で支援していく</p>		

18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ホームの中の家族としての関係を大切にしながらも人生の先輩として敬意払い接している。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族と本人の絆の深さ大切にし、近況等を家族に報告し、安心して過ごして頂けるよう、一緒になって考えている</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている</p>	<p>本人の馴染みの場所や人等聞き出し、外出の形でその場所を訪れたり、本人の喜びになってもらえるよう支援している</p>	<p>利用者は近隣の方が多く、買物、食事など出かけたたり、友人が訪ねてくる事もあり、居室を使用するなど、自由に面会できるよう支援している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>個々の利用者が孤立されないよう、職員が間に入って、利用者間の話が途絶えないような気配りをしている</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所後も職員が、面会に行ったり家族に近況を尋ねたりしている</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々の会話の中で本人の意向を聴くように努めている</p>	<p>利用者とのコミュニケーションやかかわりの中で思いや意向を把握できるよう努め、訴えが困難な利用者はしぐさや行動において汲み取り、支援されている。</p>	

24		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所前の職員ミーティングで情報を把握し更に本人や家族との会話を通じて生活歴等を把握するよう努めている</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>申し送りや、日誌で利用者の前日の状況を把握している</p>		
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>3ヶ月毎のプランの見直しの中で、次回の計画について問題点、反省点、追加プラン等を反映させている</p>	<p>担当制が取られており全職員参加のケアプラン見直しで職員の意見やアイデアを反映させながら、利用者のそれぞれの現状に即した介護計画書が作成されている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>変化や気づきがある場合は業務日誌、生活日誌に赤色を使い、分かりやすい要にして情報を共有している</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>家族と実家に帰られる時には要望により同行したり、急な外出の要望にも個別に対応している</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>近隣の小学校の児童との手紙のやりとりを行っている</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している</p>	<p>入居前のかかりつけ医が遠方でも、本人の希望があれば送迎を行い連携をとっている。</p>	<p>協力医の週1回の往診やかかりつけ医の往診、歯科医からのブラッシング支援の協力が得られ、利用者は安心した医療が受けられるよう支援されている。</p>	

31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>介護職員は気づきを書き出し、看護師に伝え医療につなげている</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入退院時の情報交換を行っており病院のMSWと関係構築が出来つつある</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ホームに於いて出来る事を家族に伝える程度にとどまっている</p>	<p>利用開始時の契約段階で終末期の対応は出来ない事を伝えている。重度化された場合は、家族や主治医との連絡調整が行なわれ、適切な医療が受けられるよう支援されている。</p>	<p>事業所の看取りに対する思いが表れ、夜勤2人体制をとられ職員の不安払拭対策となっている。今後は更に医療機関との連携構築の取り組みに期待したい。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的に訓練を行っているとは言い難い</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署立会のもと、防火訓練を行い指導を受けている 運営推進会議で地域代表は次回の消防訓練に参加予定</p>	<p>年2回の防火訓練で1回は消防署立会の下に行い、今年度はスプリンクラー設置の予定である。利用者の見守りは民生委員にお願いしている。</p>	<p>非常用食料や備品の貯蓄は不十分である。また、周辺地域の住民や地域消防団員の訓練参加依頼で協力を得る体制づくりに期待したい。</p>

その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保はもちろんの事、失禁された時は特にプライドを傷つけないように気を使っている	居室で1人静かに過ごされる方の思いを尊重し支援されている。職員はトイレ誘導時など声かけやしぐさに気配り、利用者のプライドを大切にさりげなく接している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のケア、レクリエーションの時には先ず本人の希望を聞くことから始めている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事以外は本人のペースにあわせて自由に過ごして頂いている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に整髪に来てもらったり外出時には本人と服を選んだり男性はひげ剃りも欠かさず行っている		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に下ごしらえをしたり、メニューのことを話したり、食器拭きを一緒に行っている。	利用者は毎日の昼食メニューを用紙に書かれボードに張られている。食事前の挨拶は曜日で決め、自分の言葉で音頭を取られ一人ひとりの出番を大切にしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の適量を提供し、たりなかった方にはおかわり自由で対応している 又水分もお好みのものを提供している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後全員に声掛けし自立の方でも磨き残しのチェックをしている		

43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄表を作りトイレの時間を一目瞭然にし、トイレ誘導や介助を行っている</p>	<p>利用者個人の時間対応により把握し、トイレチェック表にて自立支援している。入院により尿意が困難になられた利用者も声かけにより改善されている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>健康体操や散歩を行い、また野菜類を多く摂って頂けるように支援している</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴日は決まっているが、好きな時にシャワーをあびる方もいらっしゃるし、入浴日に入浴されなかった方には入浴日以外でも声掛けをしている。</p>	<p>週2回（火・土）午前と午後に分けて支援している。入浴剤は利用者の不安に繋がる乳白色は使わないように、足元が確認できる物を使用される等配慮されている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>状況に応じ対応しているし、昼夜逆転にならないように声掛けをしている</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>お薬説明書を常に職員がすぐに見られる所に置き用法、用量、副作用が分かるようにしている、更にいつでも看護しに指示を仰げるようにしている</p>		

48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>季節をテーマに貼り絵などの共同作業や、塗り絵、読書、麻雀など個人の楽しみが出来るように支援している</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>買い物や、外食、お見舞い等希望を元に外出の支援をしている</p>	<p>利用者の希望により何時でも外出の支援をされ、外食にも出かけている。身内の行事参加などには家族の協力があり利用者の喜びが窺える。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人の能力に応じて所持したり使えるように支援している</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話は職員がダイヤルして差し上げたり、手紙もペンや便せんを用意したりして支援している</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>外からの不快音、強い日差しなどが入らぬように配慮している 季節に合わせて作品作りを心がけている</p>	<p>季節に応じて利用者の作品が飾られ、エアコンや加湿器で温度管理や湿度の調整がなされている。管理者の気づきで利用者が使い易いよう手すりも工夫されている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファ等を置き自由に使えるように配置している</p>		

54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの家具を持参して頂いたり 仏壇を持参されたり 従来让生活空間に近くなるように配慮している	明るく日当たりが良い居室には、思い思いの調度品が持ち込まれている。テレビや電話も置かれる方もおり、快適で自分が落ち着ける場所作りをされている。また、毎年職員から敬老会の日に感謝状を送られ大切に飾られている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エレベーター設置工事をして安全に移動が出来るようにしているところである		

アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
		4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない